

## 世界史 A

### 1 目標・使用教科書等

学習の到達目標	1. 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国を含む諸地域世界の歴史と関連づけながら理解させる。 2. 人類が直面する課題を政治・経済・文化など様々な観点から考察させることにより、歴史的思考力を育てる。 3. 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を育成する。
使用教科書・副教材等	『要説世界史 A』 山川出版社      『ニューステージ世界史詳覧』 浜島書店

### 2 学習指導計画及び評価方法等

月	学習内容 (教科書の構成)	学習のねらい
4 月	序章 古代文明の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国を中心とする東アジア世界について、その歴史の展開の中で培われた社会や文化の特質を把握させる。</li> <li>古代オリエント世界では様々な民族によって歴史が展開されたこと、またイスラームの成立とその拡大によって成立したイスラーム世界の展開を、段階をふんで理解させる。</li> <li>古代の地中海世界から中世ヨーロッパ世界にかけての流れを、西アジア世界との関連に留意しておさえさせる。</li> </ul>
5 月	第 1 章 諸地域世界の形成と交流 東アジア世界・内陸アジア世界 西アジア世界 ヨーロッパ世界	
6 月	第 2 章 結びつく世界 近世ヨーロッパの形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>近世ヨーロッパ世界の拡大を学ぶとともに、現代社会と違いに気づかせる。</li> <li>ルネサンスで文化史にふれ、宗教改革ではキリスト教世界の多様化について理解し、ヨーロッパ文化の特性について把握させる。</li> <li>大航海時代の幕開けによる大西洋世界の展開とアジアへの進出を学び、世界の一体化について理解させる。</li> </ul>
7 月		
8 月	第 3 章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 革命の時代の到来	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業革命について学ぶ場面では、イギリスのみならず諸国の経済状況について把握し、後に与える影響について考察させる。</li> <li>アメリカ独立革命、フランス革命およびナポレオン時代を通じて、近代ヨーロッパ社会の課題について追究する姿勢を育成する。</li> <li>ヨーロッパ社会と東アジア社会との比較をさせ、中国を中心とした東アジア社会の変容について理解させる。</li> </ul>
9 月		
10 月	第 4 章 アジア諸国の変貌 東アジアの変容と日本の動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一次世界大戦の総力戦としての性格や、ロシア革命が後に及ぼす影響を考察させる。</li> <li>ヴェルサイユ体制とワシントン体制の理念と現実、アジアやアフリカの民族運動の動向などを理解させる。</li> <li>世界恐慌が国際秩序に危機をもたらし、ファシズムの台頭による新たな国際対立を生み出したことを把握させる。</li> <li>第二次世界大戦の性格や諸国の利害対立について段階をふんで理解させ、現代への影響について気づかせる。</li> </ul>
11 月 12 月	19 世紀の世界の一体化と日本 第 5 章 世界戦争と平和 二つの世界大戦とその影響 第一次世界大戦 第二次世界大戦	
2 月	第 6 章 三つの世界の形成 東西対立と両陣営の形成 米ソ両大国の動揺	<ul style="list-style-type: none"> <li>米ソを中心とする両陣営の対立の過程と、東西両陣営内部の変化や第三世界の登場について把握させる。</li> <li>現代社会がかかえる課題の解決について深く考察し、地球的な視野や国際的な協調の必要性について認識させる。</li> </ul>
3 月	第 7 章 グローバル化する世界	

### 3 評価方法

定期考査      提出課題及び提出状況